



にゅーすれたーふじやま・長泉 久しぶりの映画鑑賞



2014.7

パナソニックエイジフリー介護チェーン

6月22日(日)「ちぐはぐ」という映画を観ました。この映画は富士市出身の渡辺喜子さんが脚本監督された作品です。彼女と初めて会ったのは昨年の市民福祉まつりの会場で、その時は立ち話で終わりました。今年になって、さる方の紹介でゆっくりお会いする機会を得ました。時効だから書きますが、私は高校時代には劇団四季か俳優座に入って女優になれたらという夢もありました。高校へ入学してすぐに演劇部に入部し、体育館の舞台上で「隣の竹垣に、竹立てかけたのは。。。。」とか「黄パジャマ、茶パジャマ縞パジャマ」などと発声練習を真剣にした覚えがあります。(その後、どうしてもやりたかったバスケット部に転部)。あの頃はAKBなんてなかったので俳優座などの女優さんにあこがれたものです。彼女と会って、笑われそうですが、そんな昔の思い出が蘇ってきました。

「ちぐはぐ」=自分にぴったりの服、着てますか? = とサブタイトルにあったので映画の内容はなんとなく想像はできました。「良い映画でした」と言えば一言で終わってしまいますが、私たちが生きていく上で一番大切なものを教わった気がしました。彼女は映画を作る過程で、毎日、胃が痛くなるたくさんの心配事があったそうです。それと同時に「人の心を動かすものを作るため」諦めずに本気で作品づくりをされたとのこと。そのことはすべてのことに繋がると思います。私の仕事にも言えます。仕事か趣味か判断に苦しむこともありますが、どんな時も自分ができる精一杯のことで人の心を打つような仕事が出来たらと思いつながりながら行動しています。女性として一生懸命がんばっている渡辺喜子さんを応援します。
(8月9日～22日静岡シネマギャラリーにて上映)



6月中旬の静岡新聞にベトナムのドアン・スアン・フン駐日特命全権大使が静岡県にいらしたという記事がありました。日本とベトナムは昨年、日越友好40周年を迎えました。テレビドラマ化されたのでご覧になった方もあると思いますが、静岡県とベトナムとは深い関わりがあります。およそ100年前に袋井市出身の医師浅羽佐喜太郎氏が、ベトナム独立運動の指導者ファン・ボイ・チャウの窮地を救ったという史実があります。大使は静岡県庁を訪れただけでなく、袋井市、梅山「常林寺」の浅羽氏のお墓参りもされ、両国の交流を今以上に深めて欲しいと述べられたそうです。私もドラマを観た後、常林寺を訪ねました。以前にも書きましたが、富士市の富士吉原ライオンズクラブもベトナムとは深いつながりがあります。14年前からベトナム、ハノイにて日本語スピーチコンテストを行っています。優勝者は今年で18名になり、優勝者の Dung Pai thi さんを会員の家庭で7月12日から8月9日まで預かります。5月のスピーチコンテストには私も参加したため我が家に来る日を首を長くして待っています。コンテストやホームステイは国家レベルの大ごとではありませんが、ささやかな民間外交ではないでしょうか。愛すべき隣人がここにもそこにも、国境を越えているというのは平和で楽しくて、微笑ましいことだと思います。渡邊啓視

